翁

佐藤寛泰　三番叟　野村萬斎　小鼓頭取　住駒充彦　笛　藤田貴寛

千歳　金澤桂舟　胴脇　森貴史　大鼓　大倉慶乃助

狂言後見　野村太一郎　手先　曽和伊喜夫　石田淡朗

後見　中村邦生　佐々木多門

地謡　金子龍晟　内田成信　粟谷浩之　粟谷明生　金子敬一郎　香川靖嗣　高林昌司　友枝雄人

休憩（二十分）

仕舞

松風　友枝昭世

山姥　切　香川靖嗣

地謡　佐々木多門　内田成信　友枝雄人　金子敬一郎

絵馬

能

手力雄命　友枝真也

天細女命　谷友矩

天照大神　老翁　佐藤寛泰　姥　佐藤陽

女体

臣下　福王和幸

従者　矢野昌平　村瀬提

末社の神　野村裕基

後見　内田安信　金子敬一郎

地謡　狩野祐一　内田成信　佐々木多門　大村定　粟谷充雄　友枝昭世　高林昌司　友枝雄人

大鼓　亀井洋佑　太鼓　小寺真佐人

小鼓　飯冨孔明　笛　杉信太朗

終了予定時間　午後四時半頃

翁

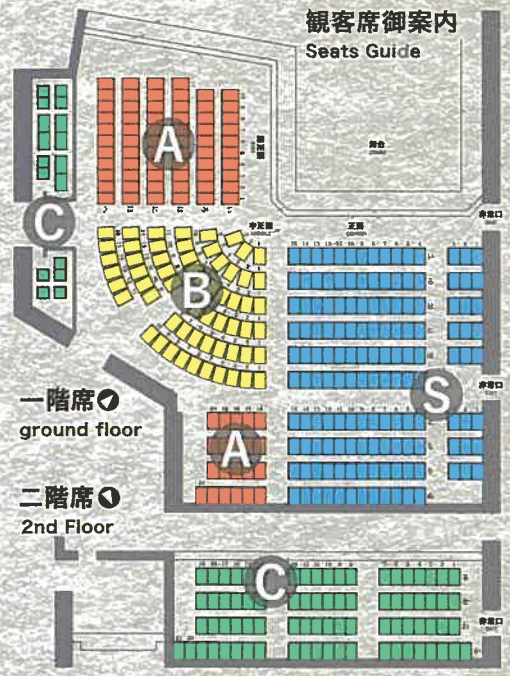
「翁は能にして能にあらず」と言われ、他曲とは別格に扱われ、形式が全く異なり天下泰平、国土安穏、五穀豊穣を祈る神事として演じられ、戯曲的な構成はない。初めに〈翁渡り〉といい、千歳、翁、三番叟につづき、素襖、侍烏帽子の最高礼装の囃子方、後見、地謡方の順に出て、三番叟以下は橋掛かりで待ち、正面での翁の一礼の後、一同所定の位置につき、演奏が始まる。まず、三挺の小鼓が打ち出し、翁の謡出しにつづき、千歳が舞いを始める。その舞の間にシテの翁は白式尉の面（切顎という顎のところで2つに分かれ、飾眉を貼り付けた他にない特色があり、目をへの字にくりぬき、笑いと福顔をたたえている）をつけ終わり、荘重な翁の舞となる。舞終わると面をとり、礼をして退場する。これを〈翁帰り〉という。この後三番叟の舞となり、始めに面をつけず、掛声を掛けながら舞う〈揉の段〉を舞う。その後黒式尉という面をつけ鈴を振りながら舞う〈鈴の段〉の舞の後、面と鈴を置き退場し、演奏がおわる。

「翁」の上演中の入退場はできません。慣例として予めご了承ください。

絵馬　女体

節分の夜、帝の勅使が伊勢・斎宮を訪れ、天候を占う絵馬掛けの神事を見ようと待っている。そこへ白馬の絵馬を持つ老翁と、黒馬の絵馬を持つ老婆が現れ、晴雨を占う絵馬の功徳を語り合う。天下万民が喜ぶようにと今年は白と黒の二つの絵馬を掛け並べ、雨も降らし日も照ることにする。やがて老夫婦は伊勢の二柱の化身であると明かし、夜の間に姿を消す。やがて天照大神が天細女命と手力雄命を引き連れ姿を出現する。悪神を懲らしめるため岩戸に籠った、天岩戸隠れの神話が舞台上に再現される。天細女命の神楽に誘われ、手力雄命が岩戸を引き開き、天照大神が岩戸より姿を現す。天下泰平・五穀豊穣を寿ぐ祝祭的な結末となる。

通常の絵馬では後シテは天照大神は男神となる。「女体」の小書がつくと女神として荘厳に現れ、位も重くなり、喜多流では大切に扱われる小書になる。



■チケットお申し込み

https://kanshonoh.jp/チケットお申し込み/

090-4949-2063（佐藤寛泰事務局）

■チケット販売開始日

2026年7月15日（水）10:00～

■お問い合わせ　（受付時間10:00～18:00・休館日あり）

喜多能楽堂事務局 03-3491-8813

喜多能楽堂　公益財団法人 十四世六平太記念財団 十四世喜多六平太記念能楽堂

料　金（税込）

S席	12,000円
A席	10,000円
B席	8,000円
C席	6,000円

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9 TEL:03-3491-8813 / FAX:050-3204-7352

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分

目黒駅西口よりさくら情報システム裏手のドレメ通りを直進 杉野学園体育館手前を左に入る

※当能楽堂には駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。

※開演中の写真撮影及び録音は固くお断り致します。　※喜多能楽堂内に食堂や軽食の売店はございません。